

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

台湾の先行きは不透明要因が山積 (Asia Weekly (5/21~5/25))

～外需の伸び悩みは内需に悪影響を与える懸念～

発表日: 2012年5月28日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/21 (月)	(タイ) 1-3 月実質 GDP (前年比)	+0.3%	▲0.5%	▲8.9%
	(前期比/季調済)	+11.0%	+10.0%	▲10.8%
	(台湾) 4 月輸出受注 (前年比)	▲3.52%	+0.50%	▲1.58%
5/22 (火)	(台湾) 4 月失業率 (季調済)	4.19%	4.13%	4.14%
	(香港) 4 月消費者物価 (前年比)	+4.7%	+4.7%	+4.9%
5/23 (水)	(シンガポール) 4 月消費者物価 (前年比)	+5.4%	+5.2%	+5.2%
	(台湾) 4 月鉱工業生産 (前年比)	▲2.33%	▲1.67%	▲3.42%
	4 月商業販売額 (前年比)	▲2.37%	▲0.90%	▲1.06%
	(マレーシア) 4 月消費者物価 (前年比)	+1.9%	+2.1%	+2.1%
	1-3 月実質 GDP (前年比)	+4.7%	+4.6%	+5.2%
5/24 (木)	(ニュージーランド) 4 月輸出 (億 NZ ドル)	38.9	41.0	42.2
	4 月輸入 (億 NZ ドル)	35.3	37.0	40.8
	(香港) 4 月輸出 (前年比)	+5.6%	+6.2%	▲6.8%
	4 月輸入 (前年比)	+5.0%	+4.1%	▲4.7%
5/25 (金)	(シンガポール) 4 月鉱工業生産 (前年比)	▲0.3%	+4.1%	▲3.1%
	(タイ) 4 月輸出 (前年比)	▲3.67%	+6.40%	▲6.50%
	4 月輸入 (前年比)	+7.87%	+18.30%	+25.60%
	(台湾) 1-3 月実質 GDP (前年比/改訂値)	+0.39%	+0.40%	+0.36%※

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値。

[台湾] ～1-3月期のGDPはわずかに上方修正も、先行きについては不透明要因が山積している～

21日に発表された4月の輸出受注は前年同月比▲3.52%となり、前月(同▲1.58%)からマイナス幅が拡大した。前月比も前月から2ヶ月連続で減少し、世界経済の先行き不透明感を背景に輸出の4分の1を占める電気製品や化学製品などの受注も大きく落ち込んだ。地域別では、全体の4分の1を占める中国本土向けや、米国向けなどが減少しており、世界的な景気の減速懸念を反映している。4月の輸出額は前年同月比▲6.4%と2ヶ月連続で前年割れし、前月比も減少するなど伸び悩んでおり、先行きも改善が見込みにくい状況が続くであろう。

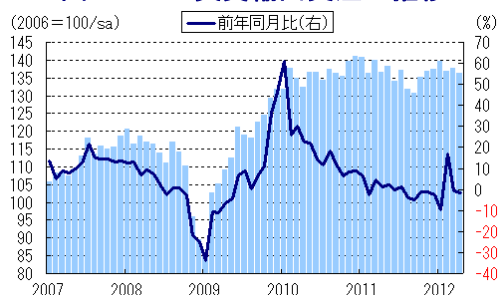
22日に発表された4月の失業率(季調済)は4.19%となり、前月(4.14%)から▲0.05p悪化した。雇用者数は33ヶ月連続で前月比は増加し、失業者数も前月比で減少するなど雇用を取り巻く環境は底堅いものの、求職者数の増加により失業率は悪化した。

23日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比▲2.33%となり、前月(同▲3.42%)から2ヶ月連続でマイナスとなった。前月比も▲0.7%と前月(同+6.0%)から減少に転じており、輸出受注の減速により先行きの輸出に下押し圧力が掛かっていることから、しばらく生産は頭打ちの状況が続くと予想される。

同日に発表された4月の商業販売額は前年同月比▲2.37%となり、前月（同▲1.06%）からマイナス幅が拡大した。前月比も▲1.29%と前月（同▲2.98%）に続いて減少しており、原油高や通貨台湾ドル安による輸入物価の上昇を背景に足下で物価上昇圧力が高まり、雇用環境の頭打ちにより個人消費に下押し圧力が掛かっていることから、小売売上高は前月比▲0.21%と3ヶ月ぶりに減少し、卸売上高も同▲1.76%と2ヶ月連続で減少している。先行きは輸出の伸び悩みによる生産下押しで雇用調整圧力が掛かると見込まれることから、個人消費を取り巻く状況は厳しさが増そう。

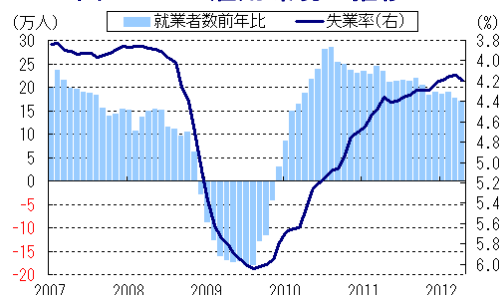
25日に発表された1-3月期の実質GDP成長率（改訂値）は前年同期比+0.39%となり、速報値（同+0.36%）から+0.03p上方改訂された。前期比年率も+2.82%となり、速報値（同+1.06%）から上方改訂されている。輸出はわずかに下振れしたものの、個人消費や固定資本投資をはじめとする内需関連項目が上方改訂されたことが影響した。なお、先行きの輸出は厳しい状況になるなか、雇用や内需に悪影響が出ると見込まれることから、景気は回復感の乏しい展開が予想される。

図1 TW 実質輸出受注の推移



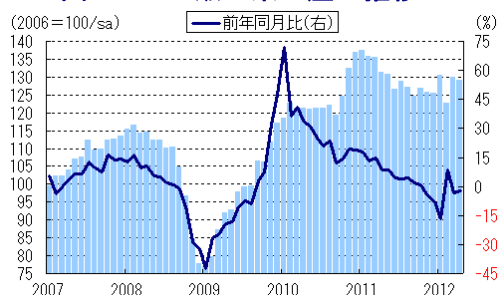
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 雇用環境の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 鉱工業生産の推移



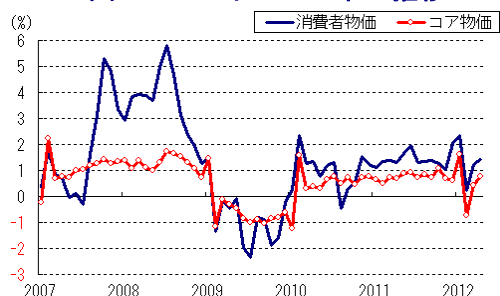
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 実質小売売上高の推移



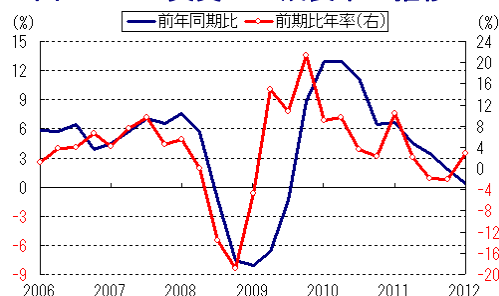
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TW インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TW 実質GDP成長率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

【シンガポール】 ～物価上昇懸念は燻る一方、産業全般で生産に下押し圧力が掛かっている～

23日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+5.4%となり、前月（同+5.2%）から加速した。なお、前月比は+0.35%と前月（同+0.97%）から減速しており、食料品価格や住宅価格に上昇懸念は燻るものの、足下の原油価格の調整を背景にエネルギー価格は下落している。通貨当局は物価抑制の観点から、通貨SGド

ルの名目実効為替レートの緩やかな上昇を志向する政策を採っており、今後も足下の政策姿勢は続けられよう。

25日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比▲0.3%となり、前月（同▲3.1%）からマイナス幅が縮小した。前月比は▲3.42%と前月（同+2.53%）から減少に転じており、生産に占めるウェイトの高い医薬品関連の生産が同▲17.33%と大きく落ち込んだことが影響している。なお、医薬品関連を除いても前月比▲0.77%減少しており、全体的に生産に下押し圧力が掛かっている。

図7 SG インフレ率の推移



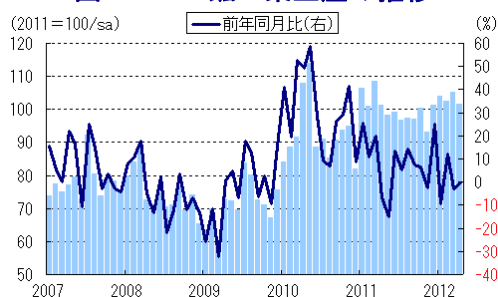
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移



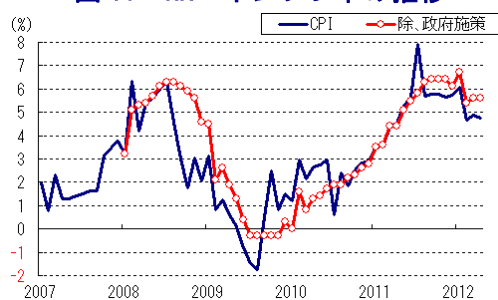
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】 ～食料品価格の落ち着きを背景にインフレ率は減速するも、先行きの上昇圧力は依然残る～

22日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+4.7%となり、前月（同+4.9%）から減速した。足下における食料品価格の落ち着きや不動産価格の上昇一服などを背景に前月比も+0.36%と前月（同+0.64%）から伸びが減速している。なお、エネルギー料金の引き上げや通貨香港ドル安による輸入物価の上昇などにより、依然として物価上昇圧力は燻っている。なお、2008年以降実施されてきた公営住宅の引き下げによる物価の歪みを除いたベースでは、4月は前年同月比+5.6%と前月と同じ伸びになっている。

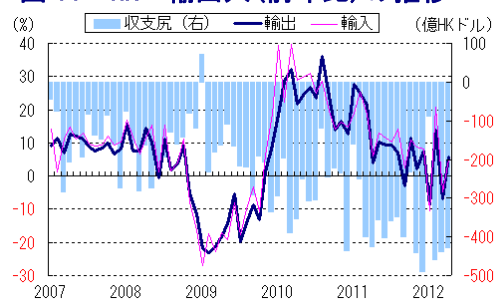
24日に発表された4月の輸出額は前年同月比+5.6%となり、2ヶ月ぶりに前年比でプラスになった。なお、前月比は前月に続いて減少しており、世界経済を巡る不透明感が再び高まる中、中国本土でも景気の減速感が顕著になっていることが影響し、貿易量は縮小している。一方の輸入額も前年同月比+5.0%となり、2ヶ月ぶりに前年比でプラスに転じている。前月比はわずかに増加しているものの、厳しい状況は続いている。結果、貿易収支は▲428.73億HKドルと前月（▲438.75億HKドル）から赤字幅が縮小している。

図 10 HK インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 11 HK 輸出入(前年比)の推移

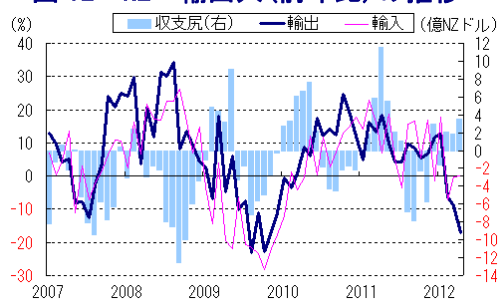


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド] ～世界経済の減速で輸出は伸び悩むも、原油価格の調整で輸入も減少～

24日に発表された4月の輸出額は38.9億NZドルとなり、前年同月比は▲17.0%と前月(同▲8.9%)からマイナス幅が拡大した。前月比も減少しており、最大の輸出先である隣国豪州の景気減速に加えて、中国経済の減速も影響している。一方の輸入額は35.3億ドルとなり、前年同月比は+0.1%と3ヶ月ぶりにプラスに転じたものの、前月比は減少しており、原油価格の調整なども影響している。結果、貿易収支は+3.55億NZドルとなり、前月(+1.86億NZドル)から黒字幅が拡大した。

図 12 NZ 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上